

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 1 回 精神障がい者地域生活推進 部会	参加者数	29 人	会場	伊那市福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成 27 年 6 月 30 日 (火) 13:30 ~ 15:40				
主 テ ー マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成26年度の部会の振り返り 2 地域生活移行コーディネーター事業について 3 平成27年度の部会の取り組みについて 4 参加者から一言(自己紹介・意見交換)他 					
主 な 意 見 な ど	<ol style="list-style-type: none"> 1 について(城村部会長より) ※ 質疑なし。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 活動概要報告 <ul style="list-style-type: none"> ・年4回実施(うち2回は講演会) ・計画相談、事例検討 ・高校出前講座(計4校で実施) ・地域生活移行コーディネーター存続に向けた活動→市町村連絡会等とも連携し、現行定数(0.5)維持。 (2) 今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・当事者の声をより丁寧に部会活動へ反映する。 2 について(きらりあ 春日他) <ol style="list-style-type: none"> (1) 県内の動向及び地域生活移行コーディネーターに期待されていること <ul style="list-style-type: none"> ・県内10圏域中、今年度コーディネーターを配置したのは、4圏域(諏訪・上伊那・松本・長野市) ・上伊那圏域でコーディネーターに期待されていることは、要約すれば次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ア 地域移行支援体制整備(指定事業所拡充とサポート) イ 地域移行支援実績(支援件数)の向上 (2) 地域移行・定着支援の現状と課題 <ul style="list-style-type: none"> ・地域移行支援(退院支援、退院から地域生活への橋渡しをする制度)に関わって、圏域内2病院のソーシャルワーカーより、コーディネーターの日頃の活動への思いが語られた。病院と地域をつなぐ架け橋としての地域生活移行コーディネーターの果たす役割の重要性を再認識することができた。 ・地域定着支援(退院後、地域での安定した生活を送れるようにする制度)に関わって、本事業を一昨年より実施している事業所より、思いが語られた。携帯を使って24時間連絡がとれる体制づくり、必要に応じての受診同行等を通して、地域生活の不安解消のお手伝いを少しでもしていきたい旨、話があった。 (3) まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・圏域に地域移行・定着支援が行える事業所は5つあるが、精神の方の地域移行で動ける所は少ない。 ・コーディネーターと相談しながら、ともに活動しながら、より多くの事業所にこの事業に関わってほしい。 3 について(城村部会長より) ※ 質疑なし。 <p>○今年度の部会活動について、部会長より提案があった。概要は、次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年4回程度(約3か月に1回)開催 ・当事者の声をより反映した部会運営 ・地域生活移行コーディネーターの積極的活用 ・顔の見える関係性、ヨコの連携強化と情報共有推進 ・計画相談の円滑な推進、高校出前講座の実施、各種研修会の企画・実施等についての継続検討 ・高齢精神障がい者支援の情報共有、介護保険分野との連携等、圏域としての高齢化問題への対応 4 について(全参加者) <ol style="list-style-type: none"> (1) 自己紹介を兼ね、日頃の思いや地域の課題などを自由に意見交換した。主なキーワードは次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ・当事者、地域の高齢化 ・介護福祉との連携 ・移動手段の確保 ・ショートステイ資源の不足 ・当事者、家族の声のさらなる反映 ・家族支援の必要性 ・ピアサポート、家族会等の充実 ・部会における情報共有 ・早期発見・早期支援 ・指定一般事業所の増加とコーディネーター活用 ・人権に配慮した入院環境整備 ・経済的自立と生活保護 ・ヨコのつながり、連携 ・多様性を認め合い、支え合う地域づくり ・研修への期待 (2) その他 <ul style="list-style-type: none"> ・部会で扱ってほしい研修会の内容について、ご要望があれば事務局(きらりあ)へご連絡ください。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動の方向性を皆で共有し、各々の思いや圏域の課題を自由に意見交換することができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細については、後日お知らせする。 					

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 精神障がい者地域生活推進 部会	参加者数	21人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成 28 年 1 月 29 日 (金) 13:30 ~ 15:15				
主 題 マ	<p>1 事例検討:「高齢精神障がい者の地域生活支援について」</p> <p>2 その他</p>					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について</p> <p>○第2回部会では、高齢精神障がい者の支援を考えるための研修会を実施した。これを踏まえ、今回は、標記テーマをさらに深めるため、グループワーク形式で、事例検討を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ:「高齢精神障がい者の地域生活支援について」 ・目的:圏域における高齢精神障がい者の支援のあり方について考える一助とする。 <p>(1) 事例の概要説明(事例提供者より)</p> <p>(2) 事例に関する質疑応答</p> <p>(3) 事例検討(グループワーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ6~7人、計3グループに分かれて、約30分間事例検討を行った。 <p>(4) 各グループからの発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合われた内容の要点を発表し、全体で共有した。 <p>(5) 事例提供者の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携のとり方を考えさせられた。地域の中には、困り感を抱えつつも、まだ支援につながっていない方も多いのではないかと。なかなか情報把握が難しいが、地域で支えるしくみづくりが必要と感じた。 <p>(6) 参加者の感想(主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉と介護保険サービスの使い分けや医療との連携のあり方について、考えさせられた。 ・さまざまな視点から事例を多角的に見ることで、その人の生活の全体像を把握する大切さを感じた。 ・誰に声をかけ、どういうチームで支援していけばよいか考えさせられた。支援者間の連携、ネットワークを作りながら、圏域として高齢精神障がい者の支援体制づくりを少しずつでも進めていけるとよいと思う。 <p>(7) まとめ(きらりあ 春日より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢精神障がいの方を地域で支えるためには、地域包括ケアシステムの中にも、高齢精神障がい者をしっかりと位置づけて考えていくことが大切である。 ・そのためにも、さまざまな方々の「ネットワーク」・「連携」が重要であり、本部会でも引き続き皆さんとともに考えていけたらよいのではないかとと思う。 <p>2 について(事務局より)</p> <p>(1) 上伊那圏域障がい者総合支援センター きらりあの事務所移転について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きらりあ事務所が、平成28年2月25日(水)より移転する。詳細は移転のお知らせ文書をご参照ください。 <p>(2) 次回部会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内容:「認知行動療法について」(研修会) ○講師:こころの医療センター 駒ヶ根 臨床心理士 ・講義と演習を通して、認知行動療法についての学びを深める予定。ぜひご参加ください。 					
ま と め	<p>・事例検討を通して、圏域における高齢精神障がい者の地域生活の課題や支援のあり方について、さまざまな立場の参加者で意見交換を行い、圏域での支援体制のあり方を考えるきっかけとすることができた。</p>					
次 回	<p>・第4回部会は、平成28年3月3日(木) 13:30~ 伊那市福祉まちづくりセンター大会議室にて行います。大勢の皆さんのご参加をお待ちしています。</p>					

平成27年度 上伊那圏地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第4回 精神障がい者地域生活推進 部会		参加者数	38人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成 28 年 3 月 3 日 (木) 13:30 ~ 15:30					
主 テ ー マ	<p>1 講座:「認知行動療法について」 2 今年度のまとめと振り返り 3 その他</p>						
主 な 意 見 な ど	<p>1 について ○講座名:「はじめての認知行動療法」 ○講 師: こころの医療センター駒ヶ根 臨床心理士 大越 拓郎 氏 臨床心理士 森口 裕理 氏 ○講座の流れ (1) 第一部 ・講義Ⅰ 認知行動療法とは? 担当:大越氏(20分) ・実習Ⅰ コラム法 担当:森口氏(30分) (2) 休憩 (10分) (3) 第二部 ・講義Ⅱ 新しい認知行動療法 担当:大越氏(20分) ・実習Ⅱ マインドフルネス 担当:森口氏(30分) (4) 質疑応答 (10分) (5) 講師への御礼(城村部会長) ○講座の様子 ・認知行動療法の基礎・基本を初心者にも理解できるよう、丁寧に分かりやすくお話くださった。 ・実習(ワーク)には皆さん真剣に取り組んでおられた。コラム法では、適応的思考を隣同士ペアになって見せ合い、互いのアイデアを共有する時間もあったが、会場が明るく和気あいあいとした雰囲気に包まれた。 ・講義と実習の組み合わせは、認知行動療法を実際に体験しながら理解できるプログラム構成で、参加者の多くが、無理なく、楽しみながら学びを深めることができていた。 ○講師への主な質問(回答は省略) ・認知行動療法がうまくいく人、いかない人はいるのか? どうすれば相手の思い込みを変えられるか? ・認知行動療法を支援に応用する場合、支援者が留意すべき点や支援者の資質、人間性等について ・友達同士のトラブル対処法が分からず不登校になる子が多いが、事前学習で使える認知行動療法について知りたい。他にも有効な心理的アプローチはあるか? ・心理検査のフィードバックのしかたについて →いずれの質問にも臨床心理士として、専門的見地から丁寧にお答えをいただくことができた。</p> <p>2 について(城村部会長より) ・今年度は、「高齢精神障がい者の地域生活支援」をテーマに、講演会や事例検討、学習会等を行ってきた。 ・次年度も、皆さんとともに精神障がいのある方々の地域生活支援をともに考えたい。課題や悩み、学びたいテーマ等あれば、ぜひ事務局へお寄せください。来年度も引き続きご協力よろしく申し上げます。</p> <p>3 について(きらりあ 春日より) ○講演会のお知らせ ・第3回生活支援・人材育成部会では、以下の内容の講演会を予定している。福祉とはまた違った視点から新鮮なお話がお聴きできると思うので、ぜひご参加ください。 演題 「得意を活かす ～わくわくしながら仕事が出来ているか～」 講師 大手 智之 氏(株式会社アソビズム 代表取締役) 日時 平成28年3月14日(月) 13:30～15:30 場所 伊那市まちづくりセンター2階 大会議室 お問い合わせ・お申込み きらりあ(電話:74-5627 FAX:74-8661)まで。</p>						
ま と め	<p>・認知行動療法の講義と実習を通して、認知行動療法の基礎・基本及び支援への応用可能性について、学びを深めることができた。</p>						
次 回	<p>・今年度は計4回の部会を開催してきました。大勢の皆さんのご参加、ありがとうございました。 ・来年度も引き続き、よろしく申し上げます。</p>						

